# 呼吸器遠隔医療分科会

１．分科会の目的

呼吸器疾患のオンライン診療の課題を検討し、普及策を提案するとともに、妥当性の検証研究を推進し、保険診療の適正化やガイドラインの作成を関係学会と共同で行う。

２．令和 6（2024）年度活動実績と成果

令和 6（2024）年度において、第 28 回日本遠隔医療学会学術大会における呼吸器診療分科会の提案によるシンポジウムの企画・運営を行った。本年度のシンポジウムでは「呼吸器診療ツールの遠隔診療への展開」をテーマに掲げ、遠隔医療の最新技術とその臨床応用について多角的な視点から議論する場を提供した。学会の分科会セッション 4（10:40-11:40）にて開催された本シンポジウムでは、鳥取大学医学部呼吸器・膠原病内科学の山崎章氏と岡山大学病院呼吸器・アレルギー内科の宮原信明氏が座長を務め、各分野の専門家による講演が行われた。正木克宜氏（慶應義塾大学医学部内科学（呼吸器））による「喘息診療・禁煙支援におけるデジタルツールの応用」、伊藤玲子氏（日本大学医学部内科学系呼吸器内科学分野）による「喘息治療における遠隔医療」、鰤岡直人氏（米子医療センター／鳥取大学医学部病態検査学講座）による「在宅酸素療法における遠隔モニタリングシステムの開発と臨床応用」、吉嶺裕之氏（社会医療法人春回会井上病院）による「長崎県における遠隔的呼吸リハビリテーションの取り組み」など、多岐にわたるテーマが取り上げられた。

本シンポジウムでは、遠隔医療技術の進展とその実際の応用事例について有益な知見が共有され、特に喘息診療や禁煙支援におけるデジタルツールの活用、遠隔医療の可能性、在宅酸素療法のモニタリング技術、遠隔リハビリテーションの実施方法など、実践的な内容が議論された。参加者からも高い関心が寄せられ、今後の研究や診療への応用可能性について活発な意見交換が行われた。本学会を通じて、遠隔医療の発展に向けた新たな課題と展望を明確にすることができたことは大きな成果である。本シンポジウムの成果を踏まえ、遠隔診療ツールのさらなる開発・改良に向けた研究を継続するとともに、次年度以降も学会やシンポジウムを通じて最新の知見を発信し続ける予定である。また、関係機関との連携を強化し、臨床現場での実装に向けた実証研究を推進していく。

３．　令和 7（2025）年度活動計画

呼吸器疾患全般にわたる遠隔診療に関連する既存の知見を整理し、現状認識を明確にする。関連する遠隔技術に関する全体的な把握を行い、現在の技術の進展やそれを活用した事例の効果や課題についての情報を集約する。在宅酸素療法の遠隔モニタリングについて、在宅呼吸器診療の質の向上を目指し普及啓発を行うとともに、さらなる応用の可能性について探る。学術研究の準備として、研究テーマの選定、研究方法の設計、必要な資料やデータの収集方法などを計画する。これらの活動を通じて、次年度の活動計画を策定する基盤とする。